

第22回東大OLK大会

2000年6月4日, 埼玉県秩父市・横瀬町「宇根峠」

さる6月4日, 埼玉県秩父市・横瀬町にて東大OLK大会が行われた。「武甲山」(90年3月, 第12回インカレ団体戦で使用)の名で長らく親しまれたトレインが「宇根峠」の名前でリメイク。1000人を越える多くの参加者が秩父の山を堪能した。大会終了後, 大会の成功に胸をなで下ろしている, 実行委員長長の降旗芳典氏に, この大会に関していろいろたずねた。

「武甲山」10年ぶりリメイク

今回, 大会開催地を「武甲山」という, 東大が過去に開催した場所以外からの選定となりましたが, その経緯に関するエピソードがあったら教えてもらえますか?

今回はインカレで使われた『武甲山』をリメイクすることになったわけですが, これには事情がありました。去年の5月ごろからトレインを探し始めましたが, 近郊にはもう使えるトレインはなく, 困っていました。そんな時に武甲山の名前が出てきました。日本学連がもうリメイクする意思がないということを知り, 著作権を譲り受け, 大会を開くことを決めました。

やっとトレインは決まりましたが, それからいろいろな問題がありました。競技性を高めるため, スタート位置を南の方に設定することになり, その結果, バス輸送が必要になりました。しかもバスは一般企業の敷地内を通らざるをえないため, 渉外に苦労しました。

他にも渉外に関しては, 今後この土地でOLK大会を無事に開催するためにも, 地元とは親密な関係を維持する必要があるため, 回覧板によるお知らせや各区長宅訪問といったお決まりの手段だけでなく, 地元の石担ぎのお祭りに飛び入り参加して宣伝したり, テレイン内にある農園の方に大会当日に会場でアイスクリームを販売してもらおうなど, できるだけ多くの地元の方と直接ふれあうことによって, オリエンテーリングというスポーツ並びにOLK大会への理解と協力を求めたりしました。

雨の予想が一転快晴・天候良好

東大大会と言えば, 時期的な問題もあり, 雨が猛暑が通り相場。今回に関してはコンディションに関する心配はありましたか?

大会の2, 3日前の天気予報では雨という予報で心配していましたが前日の予報で一転して快晴となり, 運営者の士気も上がりました。逆に暑くなることを心配しましたが思ったほどではなく, 参加者にはいいコンディションではなかったかと思えます。

優勝設定時間に再考余地あり?

大会を通して, 反省すべき点があったら挙げてもらえませんか?

当日のトラブルはあまりなかったのですが一つだけ, 大きなことがありました。それは, 一つのクラスの地図がスタートへ輸送中に紛失してしまったことです。とりあえず, 販売用の地図を地図ビンに入れ代用しました。紛失した地図が参加者の目に触れたら不成立になるかもということで心配しましたが, 幸い地図は後で無事に

見つかりました。

今回の大会の反省点はスタート時間が早かったこと, 優勝設定時間に無理があったことくらいでしょうか。一応, 優勝設定タイムは例年の80分・65分をぎりぎりまで出せないぐらいにしようと思いましたが, 日本トップの力を把握できていなかったため苦労しました。結果的には, MEは村越真さんがウイニングまで4分ということで大体予定通りになり内心ほっとしています。一方WEのほうは, 塩田美佐さんが74分ということでウイニングまで9分もあいてしまいました。女子の力は判断しにくかったため, こういう結果になり反省しています。

最後に, オリエンテーリングマガジンの読者の方へメッセージをお願いします。

最後に, 今年も1000人を超える多くの参加者の方々にお越しいただき, 本当にありがとうございました。来年以降もどうかよろしくお願い致します。

エリートクラス上位成績

* ME

1	村越 真	1:23'28"	40	静岡OLC
2	加賀屋 博文	1:27'41"	32	渋谷で走る会
3	松澤 俊行	1:28'11"	28	京葉OLクラブ
4	新 隆徳	1:31'32"	33	入間市OLC
5	藤城 公久	1:32'21"	28	つくばROC
6	高橋 善徳	1:36'55"	23	筑波山を登る会

* WE

1	塩田 美佐	1:13'15"	22	筑波大OL愛好会
2	木植 早生	1:14'09"	40	地図と森の会
3	三好 暢子	1:14'32"	32	上尾OLC
4	金並 由香	1:15'05"	29	早大OG
5	落合 志保子	1:16'07"	27	OLCルーパー
6	高野 由紀	1:16'48"	41	東京OLクラブ



会場の表彰式風景。なんと2階席が表彰台である

(Text by Jun SASAKI)

M 2 1 E ルートチョイス & 解説

村越 真

6月の東大大会と言えば、暑いか土砂降り、そんなイメージがあるが、今回の大会は珍しく好天、しかも決して暑すぎないという6月として望める最高のコンディションだった。スタートまでのバスを降りて、誘導路を歩きだした時、右手の沢の奥からひんやりした心地よい風が流れてくる。その瞬間、とっっても幸せな気分になった。

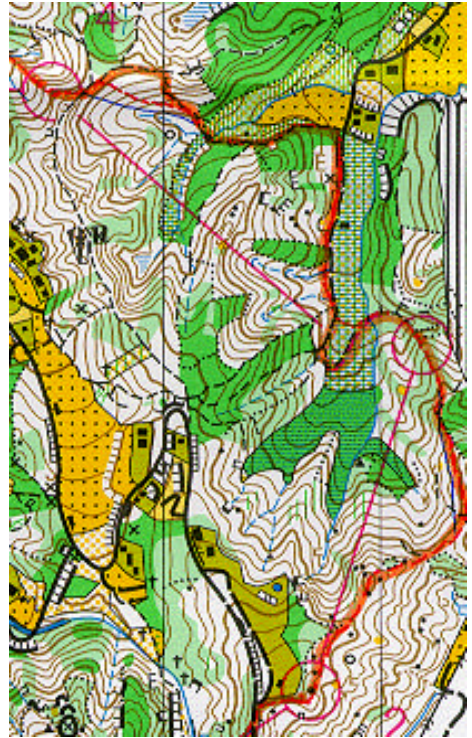
前日の精神状態は決してポジティブなものではない。合宿があったし、暑さとアップ、この二つの苦手要素が気分を重くしていた。同時に、ここ2レースほど連敗している松澤に借りを返さねばという緊張感もつきまとう。この2レースは、自分としてはほぼ納得できるレースをしての、大敗である。今や、納得できるレースをしただけでは勝てない時代だ。おかげで自分のオリエンテリングを見直す機会を与えられた。その意味でも、彼に考え直す機会をお返しせねばならない。

コース全般について言えば、ロングっぽいレグを何カ所か配置して、ルートチョイス課題をねらっているようだが、残念ながらその意図は成就していない。それはこのテレインでは仕方ないことではあるが。

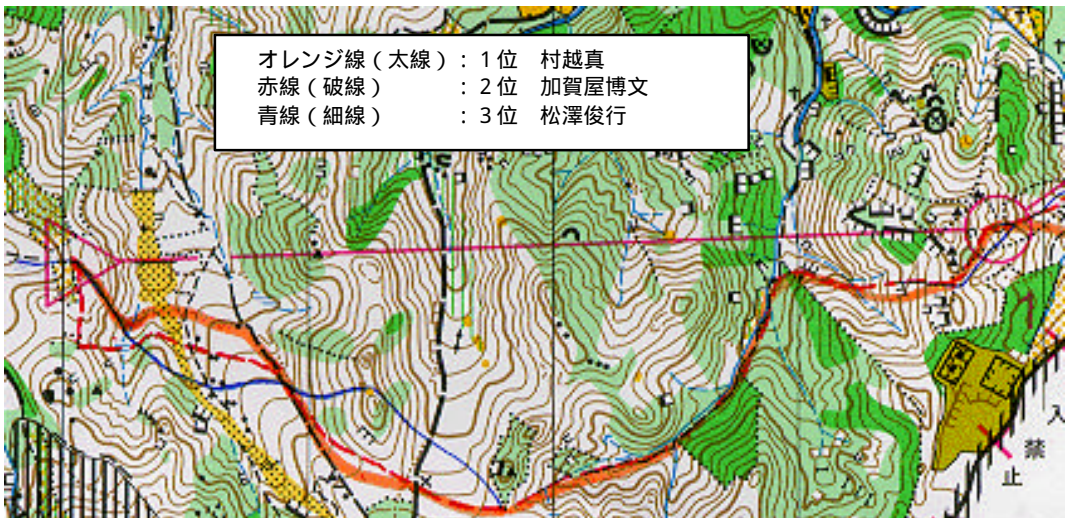
もちろんそれが、つまらないコースになったということの意味している訳ではない。ルートチョイスの課題はないが、テレインの特性を活かした尾根走りや斜面でのアタックなど、テクニカルな課題が随所に用意されている良コースである。

1までは、いきなりのロングレグである。ただしルートチョイスはないし、また難しい判断を要求する訳ではない。2位になった、松澤はここで、スタート後、不用意に手前の尾根に登るなど、技術にキレを書き、すでに3分近いビハインドをくらっている。ただし、その後レースをまとめたのはさすがである。3や16、19といったレグは私の得意レグであり、ラップを見ても、他の選手と差がついている。最近ではエリートのトップならコンパス操作の手続きや地図読みといった基本的な課題では大きな優劣はない。違いがあるとしたら、こう

がエリートとして成功の鍵と言えるだろう。私は、道や尾根といった線状特徴物を走る時も、常にその方向変化や、等高線による傾斜の変化を読みとっている。それが迷った時の判断を速くさせ、また不安からくるスピードの低下を抑えているのだ。



傾斜のあるテレインで留意すべき点は、アタックにおける高さ関係である。1、2、4、8、16など、比較的急な斜面を斜めにアタックすることを要求するレグが随所にある。地図を丁寧に読むことも重要だが、それ以上に設置者あるいは地図調査者のくせを推し量ることである。それが分かるまでは高めにアタックして、



いう一件何の難しさもないこういうレグを如何に速く走れるかという点である。手続きとしては簡単なことを、如何に速くまた不安を残さない形でできるか、それ

登り返しを避けることだ。実際1番コントロールはおいしいというほどではないにしても、高めに付いている。アタックの時点でコントロールがあるエリア全体を注

意深く眺めれば、コントロールのついている崖がどこにあるかはすぐ分かり、ロスを防ぐことができる。一度こういう経験をしたら、それ以後の同様なコントロールでも、高さ関係に関して保険をかけながらアタックをする必要が出てくる。結果的には1以外に違和感を感じるコントロールはなかったが、こういう注意が、レース中の気持ちをくじくようなロスを防いでくれるのである。

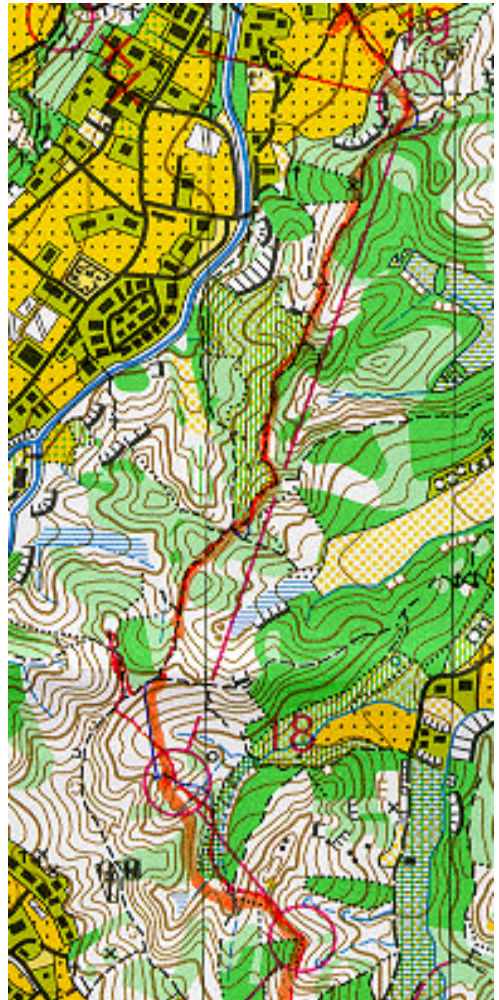
唯一、他の選手に大敗を食らったのは、11である。10からコンタリングを始めて最初の尾根を巻く時、進みやすい踏み跡が少し下る方向と、少し登る方向についていた。登る方向を選択するとコントロールより高めにあがってしまうと判断し、下る方向を選択したが、結果的にはこれが裏目に出た。斜面のもっとも厳しい部分に突入してしまい、あまりの進みにくさに結局沢の底まで降りてしまった。結果としては、少し上気味にコンタリ



ングすると、スムーズにコントロールのある尾根に取り付けたようである。

全体として、「この地図は1:10,000じゃなくて、1:9,000か8,500じゃないか」と思うほど、予想したものがどんどん出てきた。それは調子のよ

い証拠だったのかもしれない。登りも570もあるようには思えなかった。実際数えてみると560はあるから、間違いではない。印象としては等高線間隔も5mよりも小さい感じである。特に10への沢の詰めなども、覚悟



しいとしてみると、全部走れる程度の登りであった。

大会全般としては、バス輸送が本当に必要かどうかという点については疑問の余地がある。特に雨天の可能性を考えると、多少コースが犠牲があっても、会場から徒歩でいける場所の可能性をもっと探ってもよかったのではないか。

参加者が帰り始めてからの表彰式もちょっと寂しかった。でも賞品にももらった鹿?の絵のTシャツは可愛くて、かみさんが大喜びで着ることになった。